



GOALS 1-5



GOAL6



GOAL7



GOALS 8

特集 2015 約束の年 8つの宿題



18億人の貧困
この目標に向かい、2000年にスタートし
貧困削減、教育、ジェンダー、
国際社会に課せられた“8つの宿題”を果た

層を半分に一。
た「ミレニアム開発目標 (MDGs)」。
保健医療、環境など、
す約束の2015年は、もう目前に迫っている。

*具体的な目標はP6を参照。 参考文献:『国連ミレニアム開発目標報告2009』ほか



GOAL1



GOAL2



GOAL3



GOAL4

14億人が 1日1・25ドル未満

1日3食しっかり食べ、清潔な服を着て学校や仕事に出かける。週末は友達と遊んだりスポーツで汗を流したり。体調に異変を感じれば病院で治療を受ける。私たち日本人にはごく当たり前のことな日常だが、地球上には、十分な食事を取れない人々が数多く存在する。その数は約14億人。20年前の18億人と比較すれば減少はしたものの、今なお、世界の4人に1人が1日1・25ドル未満^{※1}というわずかな収入で生計を立てている。貧困はなぜなくならないのだろうか。その答えは非常に難しい。ただ言えるのは、貧困問題は複雑で解決が困難だということ。貧困はさまざまな要因が重なり合って生まれ、どれか一つの要因を取り除いたところで解決できる問題ではないからだ。例えば、途上国の人々が直面するモノ

期限付きの 数値目標を設定

こうした状況を打開するため、1990年代に入り国際社会は、経済発展を至上としたそれまでの援助から、窮乏化の畏から抜け出せない、個人を中心にした据え教育や保健医療といった社会開発により力点を置いた援助へと移行。その流れを受けてつくられたのが「ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals: MDGs)」だ。貧困削減、教育、

こうした国際潮流の中でJICAは、MDGsの達成に向けて、開発の焦点を「国家」ではなく「人々」に当てた「人間の安全保障」^{※2}の概念に基づいた支援を展開。また、MDGsでも重視されている途上国のオーナーシップを一層促進していくために、人々が自ら課題を解決する能力を高める「キャパシティ・ディベロップメント」のプロセスを大切にしながら、人材育成や組織強化、制度づくりを支援している。さらには、戦後のインフラ整備や生産部門の発展による産業化を通じて経済成長を遂げてきた日本の経験に基づき、アジアを中心とした国々へのインフラ支援を重点的に行い、今日のアジアの発展にも大きく貢献してきた。

目標は 達成できるのか？

国連は毎年、MDGsの進捗状況を『国連ミレニアム開発目標報告』で発表して

いるほか、各国首脳などによるレビュー会合も定期的に開催。05年は170カ国以上が参加する国連特別首脳会合が行われ、08年のMDGsハイレベル会合には、各国首脳のほか民間財団や市民団体の代表なども参加した。また、約束の年まで残り5年と迫った今年2010年も、9月に首脳レベルのレビュー会合が予定されている。2015年までにMDGsを達成できるのか。

『国連MDGs報告2009』によれば、「多くの成果もみられるが、ほとんどの目標において歩みは遅く、2015年までに達成できるめどが立っていない」という。

その大きな原因が、08年以降の食料・エネルギー価格の高騰と世界金融危機だ。貧困削減の進捗状況は一気に停滞し、09年には5500万〜9000万人もの人々が新たに貧困層になったといわれている。そのしわ寄せが真っ先に及ぶ子

ジェンダー、保健医療、環境など、2015年までに世界全体で達成すべき8つの目標が掲げられている。

MDGsが生まれたのは2000年。「平和と安全」「開発と貧困」「環境」「人権とグッドガバナンス」「弱者の保護」「アフリカの特別なニーズへの対応」といった、21世紀の国際社会の役割がうたわれた「国連ミレニアム宣言」の採択を受けてのことだった。さらに、教育なら2000年までに初等教育を普遍化(1万人のための教育 (Education for All))、環境なら90年代末までに温室効果ガスの排出を従前の水準に戻す(国連環境開発会議)というように、分野ごとに取りまとめられていた開発目標を統合し、一つの枠組みとして集約した。

MDGsでは、さまざまな要因が絡み合うという貧困問題の特性に着目し、包括的な取り組みを重視している。また、具体的な数値目標を「期限付き」で設定している点も画期的とされている。

どもが置かれている状況は特に深刻で、途上国では4人に1人が栄養不良などが原因で発育不全に陥っている。

一方で、目標によっては、大きくその状況が改善された地域があることも事実だ。初等教育の就学率は2000年の83%から07年に88%に改善されており、特にサハラ以南アフリカでは15%、南アジアでは11%も上昇した。また、5歳未満児の死亡率(出生1000人当たり)も90年の93人から07年の67人と減っているほか、予防・治療が可能な疾患で死亡する子どもの数も1260万人から900万人程度にまで減少している。さらには、ほかの予防接種キャンペーンの拡大などによって受診者が増え、全世界での死亡者は、2000〜07年で75万人から19万7000人へと激減している。

「貧困のない世界へ」。この理念に向かい、国際社会が一丸となって努力することが、8つの宿題を果たす唯一の方法であることは確かだ。

※2 人間の生にとってかけがえのない中枢部分を守り、すべての人の自由と可能性を実現すること。

※1 2008年に改定された貧困基準。 注: MDGsの8つのロゴは、NPO法人「ほっとけない世界のまずしさ」が作成。